

## 熱海市と海上自衛隊が海上応急給水訓練を初めて実施

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・田代裕久1等陸佐）は11月5日（火）、熱海港七半岸壁（熱海市）で行われた熱海市と海上自衛隊水中処分母船3号の海上応急給水訓練に協力した。

この訓練は、能登半島地震の際に実施された海上給水を参考に、手順や必要事項の確認、防災体制の強化を図る目的で初めて行われた。

海上自衛隊の水中処分母船3号、熱海市水道温泉課、熱海市消防本部が参加し、第1部は、大規模地震により市内全域が断水、孤立状態となった想定で、船から消防ポンプ車や市の応急給水車への給水を行った。それぞれの担当者が船上と岸壁で声を掛け合いながら船と車両をホースで繋ぎ、接続や水圧の具合などを確認した。

第2部は、伊豆半島南側で地震による断水、孤立状態が発生、被害が小さかった熱海市から海上自衛隊艦艇による応急給水支援を行う想定で行われた。岸壁の消火栓から消防隊員がホースを延ばし、乗員が船上の真水搭載口に接続して船のタンクに100トンの水を給水した。

訓練を終えた熱海市の担当者は「海上自衛隊との給水訓練は初めてだったが、全体を通してスムーズに行うことができた。熱海市には初島があるため、離島への補給訓練も視野に入れて継続的に実施していきたい」と今後の関係強化に意欲を見せた。

また、水中処分母船船長の山田努1等海尉は「船から消防車や給水車へ給水する訓練は初めて行った。柔軟に対応できることがわかり、有意義な機会だった」と成果を語った。

静岡地本は、今後も自治体や部隊との懸け橋として調整を行い、地域の防災に貢献していく。

